

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析・活用について

学校名

大磯町立国府中学校

1 調査結果の分析で明らかになったこと

	習得の状況が良好であると判断できるもの	指導の改善・充実が求められるもの
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を読み取る問題の結果が高かった。 ・ 無回答率が低く意欲が高い。 ・ 文章の構成や、その要素が書かれたことによる効果について考える活動を行ったことが成果につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読む力が全国平均よりもやや低く、物語の登場人物の分析や人物同士の関係性を読み取る力に課題がある。 ・ 自分の考えをまとめ、記述する力を高めるための指導の工夫が必要である。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全領域、観点、問題形式において、全国及び県の結果とほぼ同等であった。「図形」に関しては、特に良好であった。 ・ 無回答率は比較的低く、粘り強く問題を解く意欲がついてきたと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正答数分析グラフから、全体として全領域、観点、問題形式ともに良好であったが、理解の差が大きい実態があるので、アプローチの仕方や基礎基本の定着をさらに工夫していく。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元素記号について、繰り返し学習したことが定着し、正しく書くことができています。 ・ 無回答率が低く、日ごろから章末テストなどを実施したことで、粘り強く学習に取り組むことができるようになったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条件分岐を活用した問題について、苦手とする生徒が多く、粘り強く問題を解くためのトレーニングをする必要がある。 ・ 記述問題が苦手なため、自分の考えを記述できるようにする力を身につけられるよう工夫したい。
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T機器の使用についてほとんどの生徒が肯定的に回答し、全国と比較しても大きく上回っている。 ・ 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「どちらかと言えばあてはまる」以上の答えが高めであり、学校目標や学校研究に沿った教育活動の成果と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分には、よいところがあると思いますか」等の問いで、「1 当てはまる」の回答は少ない傾向があるが、「2 どちらかと言えば当てはまる」の回答が多い。自己肯定感を保てる範囲までは成長してきたと考えている。 ・ 自己肯定感を高めるために、主体的に活躍できる場を継続して設定する必要がある。

2 学校運営及び授業の充実に向けた取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力面において、日頃から I C T機器を積極的に活用し、各教科等においてデータから情報を読み取って自分の意見をまとめる授業等を意識的に実施している。一方で、I C T機器を用いて情報を整理することに苦手感を持つ生徒の割合が高いため、今後さらなる指導の改善に取り組む。 ・ 生活面において、将来の夢や目標を持っている生徒の割合が比較的高い。これは、めざす生徒像の重点である「想像力」が、各教科にとどまらず行事等さまざまな学校生活の場面で育成されていることの証左である。一方で、自身のよさに気づいている生徒は比較的低い。今後、学校生活のあらゆる場面で教師が生徒の姿を丁寧に見取り、生徒の良い面を積極的にフィードバックするといった教育活動の改善と工夫を行う。
--

3 家庭（地域）へのお知らせ ※取り組んでいただきたい内容や知っておいてほしい内容等

<p>本校の強みである I C T機器の活用を継続し、さらなる学力向上を目指します。自分の将来と夢の実現のために学習面・生活面ともに自身のよさを理解できるように、教育活動の改善と工夫に取り組み、学校での生徒の様子を保護者や地域に発信しますので、教育活動の理解と支援をお願いします。</p>
--